

2021 年 1 月 5 日

2021 年 社長年頭所感

明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願い申し上げます。 コロナに罹患された方々に心よりお見舞い申し上げますとともに、療養中の方々の 1 日も早い快復をお祈り申し上げます。

伊藤ハム米久ホールディングス株式会社（東京都目黒区）の代表取締役社長 宮下功による「2021 年 年頭所感」の要約を下記の通りお知らせします。

記

昨年を振り返って

昨年は、新型コロナウイルス感染症に始まり、そして終わった一年であり、人々にとって、記憶に残る年になるであろうことは疑う余地もない。 当社グループにおいても、種々の感染対策・クラスター対策を講じ、お客様への商品供給において、大きなご迷惑をお掛けすることなく今日に至っている。 さまざまなストレスや制約がある中で、各人や各部署が創意工夫をされ、無事、年を越すことができたことに深く感謝する。

変化の兆しを的確に捉え、いち早く適切に対応する集団でありたい

巣ごもり消費拡大による、販売チャネル別売上のシフトに始まり、小売の現場では、来店客数の減少と客単価の増加、滞在時間の短縮化など、消費行動の変化が見られた。 当社グループの商品戦略・販売戦略も、市場の変化に適切かつ迅速に対応をしてきた。 世の中は常に変化しており、変化への対応力が企業の競争力に直結することは言うまでもない。 常にアンテナを高く張り、変化の兆しを的確に捉え、いち早く適切に対応する集団であり続けたいと考える。

Fact(事実)を正確かつ多面的、そして、迅速に収集することが正しい判断の確率を高める

昨年は、新型コロナウイルス感染症や九州豪雨といった大きな自然災害も継続的に発生し、危機管理の重要性を改めて強く感じた。 その中でも危機管理において重要なことは、Fact(事実)を正確かつ多面的、そして、迅速に収集することであり、それが正しい判断の確率を高めるということだ。 また、仮に判断が間違っていたとしても、前提とした Fact との整合性を検証することで、いち早く判断を修正することが可能となる。

本年のスローガン

本年は、新しい中期経営計画が始まる年であり、当社グループとして、成長の種は至る所に転がっている。 先行きが不透明なときにこそ、奇をてらうことなく、物事の本質を見極め、基本動作を大切にし、やるべきことを着実に実行することが肝要であると、強く思う。 一人一人が「当たり前のことを当たり前にやりきる」存在になれば、さらに強く逞しいグループと成り得る。 以上を踏まえ、本年のグループとしてのスローガンを以下とする。

「当たり前のことを当たり前にやりきる」

～判断や行動を先送りせず、やるべきことを、迅速かつ的確にやりとげる～

以上

本リリースに関するお問い合わせ先	伊藤ハム米久ホールディングス株式会社 総務部広報室 篠原、眞島 Tel:03-5723-6889 Fax:03-5723-2112
------------------	---